

令和2年度中学入試

[後期 入試]

国語科 問題

注意事項^{じこう}

1. 開始後すぐ、日本語リスニング問題の音声流れ始めます。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
3. この問題冊子は、表紙^{ふく}を含めて 12 ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや抜け落ち^ぬに気づいたりした場合は、手を挙げて監督者^{かんとくしゃ}に知らせなさい。

4. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
5. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離^{はな}してはいけません。

[後期 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

① 日本語リスニング ※試験開始後、すぐに音声が始まります。

〈問題〉 音声をきいて、あ〜えの中から一つ選び、記号で答えなさい。【余白にメモをとってかまいません】

- (A) 問一 あ ウータンウータン い オランウータン う オランウータンズ え オランウータン
問二 あ 人 い 猿 う 森 え 人々

- (B) 問一 あ 0円 い 300円 う 400円 え 700円
問二 あ 1400円 い 1100円 う 800円 え 0円

② 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。問題に字数制限のあるものは、すべて句読点や記号も一字とする。

私の息子は、十三歳から十八歳までヨーロッパの（注1）インターナショナル・スクール（A I S）で学び、その後日本の大学に入ったが、この体験を通じてヨーロッパの①「個人主義」、およびわが国がそれを取り入れていないこと（拒否していること）が身にしみてわかった。一九九八年四月、中学一年を終えた息子を連れて妻と私はヨーロッパに飛び、息子は（注2）日本人学校に通い始め、無事九月からA I Sに入学できたわけだが、「みんな一緒主義」に塗りこめられた日本人学校とそれがほぼ完全に消え去っているA I Sの違いは印象的であった。

息子は「ひとりでいること」が好きな少年であり、昼もみんなと一緒にカフェテリアでわいわい食べることはせず、パンを買いそれをどこかで一人で食べていた。この事を息子から聞き知って、私が父母会で先生に相談すると②「ヨシ（息子の愛称）は変わった子ね、ハハ」と笑うだけであった。息子はサッカーの練習も一人でし、スクールバスにも乗らず市電を利用していた。それでいて、友達も適当にいてサッカーの花形選手であった。だが、その前にいた日本人学校では、昼食も、サッカーの練習も、一人ですることは禁じられた。子どもがみんなと一緒に食べることに遊ぶことは疑いえない「常識」であった。このaジユウアツの中で息子は限界状況だったから、A I Sに転校して、「一人でいることが好きな子もいていい」という③お墨付きをもらって、親もほっと安心した次第である。

私自身、小学校から中学校を通じて「ひとりでいること」が好きな子であり、偏食だらけであり、遊ぶことが嫌いで、体育ができなかったから、それが許されないbカクイツ教育にひどく苦しめられた。なぜ毎日給食をみんなと一緒に、しかも全部食べねばならないのだろう？ なぜ昼休みは校庭に出てみんなと一緒に遊ばねばならないのだろう？ なぜ運動会が、遠足が、学芸会が……つまりみんなと一緒にしなければならぬおびただしい学校行事があるのだろうか？ 当時このような疑問は体の底でぐぐぐわき出していたが、言葉に出すことなど考えられなかった。こうした疑問さえ持つてはならないと教えこまれていたのだから。

だが、それから五〇年も後に、A I Sでほぼ④私の昔の夢が実現されているのをcケンブンして、さわやかな感動に包まれたのである。日本の教育現場ともっとも大きな差異は、選択の幅である。中学生であるが、昼からカフェテリアで食べてもいいし、食べなくてもいい。一時間目から登校してもいいし、二時間目からでもいい。スクールバスに乗ってもいいし、乗らなくてもいい。学芸会に参加してもいいし、参加しなくてもいい。息子はサッカーが好きだったので、五年間サッカーだけ懸命にしてあとはすべて手を抜き、それで何のともなわなかった。

この恐るべき差異は何に起因するのか？ 一つのヒントがある。わが国では電車の中も、駅も、銀行も、商店街も、「かけこみ乗車をおやめください！ お忘れ物にご注意ください！」などなど、テープ音によるあいさつ、dケイコク、注意放送だらけ。そして、初詣でも、お花見でも、花火大会でも、人が集まる場所すべて警察官がマイクで「足元に気をつけて！ 押し合わないで！」とガナリたてる。これがかの地には全くないのである。わが国をおおう「みんな一緒主義」は政府が民衆を善い方向に指導する（注3）「パターナリズム」の表れである。これを民衆も何の疑問もなく受け入れ、ここに政府は民衆をもっと指導すべきだと思ひこみ、民衆は政府に対して「もっと指導

してくれ」と要求する両者のうるわしい(?) 関係が成立する。地震に伴う福島原子力発電所の事故に対する⑤日本人と外国人の対応の違いは印象的であった。日本人は政府や東京電力の事故報告を信じ、後からその嘘を知って激しくeせめ立てた。だが、外国人の多くは初めからこれを信ぜず、あつという間に日本を離れてしまったのである。

俳優の岸恵子は、子供のころの戦争体験をいく度も語っている。ある日、「子供は全員この(注4)防空壕に入れ」という大人の指示があったが、彼女はとっさにここは危ないと直感してひとり防空壕を飛び出した。やがてふり返ると、その防空壕めがけて空から爆弾が降りそそぎ子供たちは全員殺されたのである。権威を信じない精神はこの時自分のうちに形成された、と彼女はきげんとして言う。

だが、もちろん反対のこともある。防空壕に残った子供たちは全員無事であり、そこを抜けだした彼女だけ爆弾に身体を引き裂かれて死ぬこともあり得よう。だが、それでも、そのすべては自分の判断であつて他のだれもせめなくていいのだから、いさぎよいではないか。権威を妄信するものに限って、後でわが身に損益が生ずると、「(権威に) だまされた」とつぶやくのだ。自分は戦争を引き起こした政治家や軍人にだまされたのであり、かつての津波情報を発した市役所や村役場の役人たちにだまされたのである。⑥そうであつてはなるまい。「自分で」判断して行動することには、自己責任を引き受ける覚悟が伴わなければならない。権威を信頼し、後でだまされたと訴えて責任を回避する態度から脱出しなければならない。

被災地を訪れて、タクシートの運転手さん、旅館の仲居さん、避難所の人々など、静かにあきらめきつて運命に耐える人々の姿勢は感動的なものであつた。すべてを失いながら、自分よりもつと不幸な人もいるからとほほえむ人々、救助隊に対してわずかな食べ物を差し出す人々、しかし、それは「みんな一緒主義」の被害者と解せないこともない。こうした「いい人」に接して感じたことは、⑦もつと「わがまま」になっていいのに、もつと世を呪つてもいいのに、ということであつた。自分の「わがまま」をこれほどまでに抑えつけていると、他人の「わがまま」も受け入れがたくなってくるであろう。かつて戦地で戦っている兵隊さんたちを思つて、(注5)銃後の人々にはいっさいの「わがまま」が禁じられていたように、目下の日本はこうしたどんよりした空気におかされているように思われる。

自分の「わがまま」を抑えて他人すなわち「みんな」を気づかうというまじめな美德そのものが、知らず知らずのうちに一定の信念以外の信念を、一定の感受性以外の感受性を、一定の行動以外の行動を拒否する態度を呼び起こす。あまりにもまじめで自分の「わがまま」を押し殺していると、気がつかないうちに他人の「わがまま」を切り捨て「みんな一緒主義」に傾斜することになるのだ。

日本人はもつと自分の「わがまま」を貫いていいように思う。そのことによつてはじめて、他人の「わがまま」にも寛大になれるのだ。まずお互いの「わがまま」を認め合うこと、ここから各人の信念や感受性の多様性を尊重する道も開かれていくのであり、その時「みんな一緒主義」も自然に希薄化していくのである。

(注1) インターナショナル・スクール：多様な国籍・民族の子供を受け入れる学校。

(注2) 日本人学校：海外で生活する日本人の子供の教育を目的とする学校。

(注3) パターナリズム：相手の利益のためには、本人の意向に反してでも、意思決定や行動に口出しすべきだという考え方。

(注4) 防空壕：空襲を受けた際に、身を守るため、地面を掘って作った穴や地下室。

(注5) 銃後の人々：直接戦闘にかかわっていない一般国民。

(一) 波線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ジュウアツ b カクイツ c ケンブン d ケイコク e セ(め)

(二) 傍線部①「個人主義」とあるが、これと対照的な意味で使われている語句を本文から探して十字以内で抜き出さなさい。

(三) 傍線部②「ヨシ(息子の愛称)は変わった子ね、ハハハ」と笑うだけであつた」とあるが、なぜか。その理由としてもっとも適切

なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ヨーロッパと文化や風習の異なる日本人は、しばしば奇妙な行動をとることがあるのを過去の経験で知っていたから。

イ 思い思いに行動することが許されている A I S では、みんなと一緒に行動しないことなど大した問題ではないから。

ウ まだ転校して間もない「ヨシ」が、今は周囲にとけこめなくても、そのうちなじめるようになると安心してゐるから

エ 心配性で過保護な日本人の両親が、ささいなことで相談に来て、まともにとりあう必要はないと判断していたから。

(四) 傍線部③「お墨付きをもらつて」について、次の(1)、(2)に答えなさい。

(1) 「お墨付き」を言いかえた熟語に「ホシヨウ」があるが、どの漢字を用いるのか。次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 保 イ 補 ウ 歩 エ 障 オ 賞 カ 証

(2) 「お墨付きをもらう」と同じ意味の慣用句を次のア～キの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 折り紙をつける イ 手のひらを返す ウ 目からうろこ落ちる エ 太鼓判を押す オ 隅に置けない

カ 尾ひれをつける キ 寝た子を起こす

(五) 傍線部④「私の昔の夢」とあるが、それは何だったのか。傍線部④より前の本文から探して十字以内で抜き出さなさい。

(六) 傍線部⑤「日本人と外国人の対応の違いは印象的であった」とあるが、この時の「外国人」と後に出てくる「俳優の岸恵子」との共通点を次のようにまとめた場合、() の中にふさわしい語句を、指定された字数で本文から探して抜き出さない。

【() I 九字 () をもち、() II 十三字 () とくろ。】

(七) 傍線部⑥「そうであってはなるまい」とあるが、何がいけないというのか。その説明として適切な二十七字の表現を本文から探して、その最初と最後の五字を抜き出さない。

(八) 傍線部⑦「もっと「わがまま」になっていいのに」とあるが、そのようにいう理由を八十字以内で答えなさい。

③ 高級和菓子店の養子である「まことくん」と「私（みつよ）」は、近所に住んでおり、よく二人で遊んでいる。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。問題に字数制限のあるものはすべて句読点も一字とする。

① まことくんの家の前を通るとき、その巨大な邸宅の窓のひとつひとつに明かりが灯っていると、私はほっとした。あそこには古くから確固として続いている、ひとつの家族がある。メンバーが替わっても変わらないものがある。

とても忙しい職人さんもたくさん抱えているし、お茶会だの国の行事だのがあるかぎりは永遠にあわただしさから逃れられないし、お父さんはたまに浮気してしまったりしているけれど、それを大きく包み込み、飲み込んでしまうほどの大きな力が a ソンザイ している。おじいちゃんとおばあちゃんがいて、お父さんとお母さんがいて、子どもたちがいる。その形がああ明かりの中で、なにがなんでもずっと続いていく。

そういう感じがしたのだ。

② うちが親子三人で、しかもうちの両親はふたりとも県外から越して移住してきたので、まわりに親戚はいない。だから、そういう、どこか出っぱってもどこかがちゃんとへこんでくれるような、(注1) 有機体みたいな家族構成がとても頼もしく思えた。

店を閉めて、三人でテーブルに向かってごはんを食べていると、その人数の少なさに驚いてしまうことがあった。ここでお父さんが癌になったら？ お母さんが b カロウで倒れたら？ そうしたら、こういう幸せ……TVの音と、食器の音と、沈黙と交互にくるちよつとしたおしゃべりの音が全て消えてしまう。すぐ起こりすぎる、簡単すぎる、と思えたのだ。

まことくんの家では、ひいおじいちゃんが死んだときものこりの家族が大勢いたし、忙しくて両親が留守でも、お手伝いさんが明かりを灯して、食事の支度をしていた。

でも、うちは、たった三人だ。つぶしがきかなすぎる。そう思ったのだ。

でも、まことくんからすると、それは違ったようだ。

「今日は僕がそっちに遊びに行くよ。」

と電話で言われるたび、私は、

「どうして？ そっちのほうが広いし高級なお菓子が出てくるのにな？」

などと言った。

するとまことくんは、

「だってみつよちゃんの家にいると、③ なんか安心するんだもん。」

と答えた。

午後ずつとうちにいて、私のせまくて汚い部屋で本を読んで、私のお母さんが作った固くてまずいお菓子を食べて、何が安心だろう、

と幼い私は思っていた。

幼い上に苦勞知らずの私には、まだまことくんの家の複雑さを理解できる目はそなわっていないかった。

お金持ちだから、冷たくて、形だけ、お金だけ……というよくある図式にはまことくんの家は全くあてはまっていなかったからだ。もしそうだったら、わりと勘のよかった私には理解できていただろう。でも、彼の家は大家族の持つ愛情深い良い点が充分に生きていた。

それにしても商売というものの複雑さがかもしだす微妙な影が、確かにそこにはあったのだろう。

私の家は単純な構成で、単純に「セイケイ」を立てていた。その感じがまことくんにとつてどれだけ確かなものに思えたか、今思うと、涙が出てくることがある。

たまに、よく晴れた夕方、金星が空にぴかりと光っているような「ジゴク」に、家々の明かりを見ながら、私はまことくんの言葉を思いだして、泣けてくるのだ。

「夕方、みつよちゃんの家を階段を下りて帰るときになると、お店にはいつでもみつよちゃんのお父さんがいて、お客さんが何人かいて、本の匂いがして、いつでも変わらないでしょ、そして、台所の窓には電球の黄色い光がうつっていて、みつよちゃんのお母さんが晩ご飯の支度をしている音がしているでしょう。帰りながらそれを見るのが好きなの。」

最後の夜、④まことくんは帰りがらなかった。

あまりにも帰りがらないので、うちの母がまことくんの家に電話して「泊めてあげましょうか？」と言ったほどだった。いつもきちんとして時間通りに帰っていくまことくんにしては、とても珍しいことだった。

うちの父は古い書物について何冊か本を出したり、たまに大学に教えに行ったりもしていたので、まことくんの家の、多分あったのだろう「社交（注2）コード」にはひっかかかっていなかったようで、いつでもまことくんの家の家族はうちに対して好意的だった。

でもその日は、次の日朝早くに集まりがあつてたくさん親戚がやってくるので、まことくんにはぜひ帰ってきて早く寝てほしいということだった。それで、お手伝いさんがまことくんを迎えに来ることになった。

お手伝いさんがやって来るそれまでの数十分間の濃密さを、私はどう表現すればいいのだろう。

まことくんは私の腕に顔を埋めていた。本をひざに開いたまま、じつと、埋めていた。泣いているわけではなくて、ちょうど犬が体にすりよってくるように、ぴたりと私にくっついていたのだ。ちよつと濡れたような鼻息が、私のブラウスを温かく湿らせていた。

「帰りたくない、こわい。」

まことくんは言った。

私は、まことくんの細い髪の毛をそうとなでて、大丈夫だよ、と何回も言ったけれど、空気が重くのしかかってくるのがよくわかった。不吉な気配が窓からのぞいているようだった。この世の光や、とんぼの羽根の透明さとか、和菓子の表すきれいな四季とか、川沿いの桜のほの明るいピンク色だとか、おいしいものをこれから食べるときの気持ちだとか、旅行に行く前のどきどきだとか、⑤そういうもの全てから、私とまことくんは遮断されてしまい、この夜は決して明けない、そういう気がしてきた。

「いつか結婚して、帰らなくていいようにしよう。」

私は、その頃から結婚がなにか決定的なもので、だからこそ今、多少A折り合いの悪い両親が困っているとか、まことくんのお父さんが浮気してもお母さんと離婚せずに家族が続いているとかいうことをわかっていたので、とにかく何かこの世の中のよきこととまことくんをつなぎとめておくための重しとして、その言葉を言った。

まことくんはちよつと笑って、恥ずかしそうにして、

「そうしたら楽しいだろうなあ。ずつといっしょにいて、本を読んだり、おやつを食べたりできるんだ。ドラえもんとのび太みたいに。」

「それって男同士の話なんじゃない？」

⑥私は言った。自分なりのロマンチックさの勢いがそがれたので、不満をおぼえて。でも、まことくんは全然B悪びれずに、うつとりと言った。

「でも、あれが僕の理想の光景なの。ふすまの前で、ふたりともぎぶとんに寝転がって、いっしょにどらやきを食べながら、マンガを読んでいるでしょ？」

「あんなどらやきでいいの？ まことくんは。」

「うん、⑦（注3）丹波の栗とか入ってない、皮もちゃんとしていない、普通のどらやきでいいの。」

まことくんは言った。

その時だけ、まことくんの顔はちよつと幸せそうにCほころんだ。

まるで桜のつぼみが開くみたいに（X）、甘く。

でもやがてお手伝いさんが来てしまい、まことくんはがっかりして、半べそで、ふりかえりもせずに夜道を帰っていった。

一歩一歩が重そうで、背中力が（Y）抜けた、淋しい姿だった。

そして、それがまことくんを見た最後になった。

夜、うちの二階の窓からはまことくんの大邸宅が、大きな庭木の向こうにいつでももちらつと見えていた。

私はその明かりを見て、なんとなく安心して眠ったものだった。あそこにはあの人たちがいて、確固とした暮らしがあつて、食事があり、ふとんがあり、長く続いている。そのイメージに私まで守られて。

でも、その日、彼の家の明かりは（Z）ついていたのに、なぜかいつもみたいに安心しなかった。ちようど夕方のまことくんの様子みたいに、暗く、淋しく、その電気の明るさが空々しく庭木にeウツつていた。

（よしもとばなな

『きみが見つける物語 十代のための新名作 友情編』所収
「あつたかくなかない」より 一部改めたとこがある）

(注1) 有機体：生命力をもっているもの。

(注2) コード：規則、きまり。

(注3) 丹波の栗：丹波（兵庫県と京都府の一部にあたる）地方の名産とされる、実の大きな栗。

(一) 波線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

- a ソンザイ b カロウ c セイケイ d ジコク e ウツ（つて）

(二) 二重傍線部 A～C の意味として、もっとも適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 「折り合い」

- ア 関係 イ 機嫌 ウ 景気 エ 性格

B 「悪びれずに」

- ア 厚かましく イ 意地悪して ウ 気後れして エ 平然として

C 「ほころんだ」

- ア 赤くなる イ 安心する ウ 笑顔になる エ 涙を流す

(三) 空欄（X）～（Z）にあてはまる言葉として、もっとも適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい

（同じものをくり返し使ってはいけない）。

- ア きちんと イ だらりと ウ ぴたりと エ ふわっと オ ぽつりと

(四) 傍線部①「まことくんの家」②「うち」とあるが、それぞれを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を本文から探して、それぞれ二字で抜き出しなさい。ただし、AとBは対義語になる。

【みつよの家は（A）であるのに対し、まことくんの家は（B）である。】

(五) 傍線部③「なんか安心する」とあるが、なぜか。その理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、本文から探して九字で抜き出しなさい。

【まことくんにとって、みつよの家は（ ）ものだったから。】

(六) 傍線部④「まことくんは帰りがらなかった」とあるが、なぜか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まことくんが、本心を言えるのはみつよだけだから。

イ 次の日の朝早くから、自分と仲の悪い親戚がたくさん来るのが嫌だったから。

ウ みつよの家で読みかけていた本が気になっていたから。

エ 不吉な気配をなんとなく察して、自分の家に帰るのがこわくなったから。

オ わがままを言えば、みつよが慰めてくれると分かっていたから。

(七) 傍線部⑤「そういうもの全て」とあるが、これを言いかえている言葉を、本文から探して十字で抜き出しなさい。

(八) 傍線部⑥「私は言った。自分なりのロマンチックさの勢いがそがれたので、不満をおぼえて」とあるが、ここで使われている表現技法と同じものが使われている文を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おおい、雲よ。

イ 見上げると、満天の星。

ウ もう一度会いたい、もう一度。

エ もうやめろ、そんなことは。

(九) 傍線部⑦「丹波の栗とか入ってない、皮もちゃんとしていない、普通のどらやきでいい」とあるが、まことくんは、なぜこのように言うのか。その理由を五十字以内で説明しなさい。ただし、必ず「くらし」という言葉を一度使うこと。

【問題は以上で終わりです】

①

(A)	問一
(B)	問一
問二	問二

②

(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)
		II I		(1)			a
							b
		}					c
				(2)			d
							e
							め

③

(九)	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)
					A X A			a
					B			b
						Y B		c
						Z C		d
								e
								って

得点	
受験番号	

令和二年 中入 国語 [後期]

【解答】(120点満点)

① (20点)

- (A) 問一 え 問二 う
- (B) 問一 い 問二 い

⑤ * 2

② (50点)

- (一) a 重圧 b 画一 c 見聞 d 警告 e 責(め)
- (二) 「みんな一緒主義」
- (三) イ
- (四) (1)ア カ(順不同) (2)ア エ(順不同)
- (五) 「ひとりであること」
- (六) I 権威を信じない精神 II 「自分で」判断して行動する
- (七) 権威を信頼し避する態度
- (八) 自分のわがままを貫くことで他人のわがままにも寛大になれ、
各人の信念や感受性の多様性を尊重する道も開かれていき、
「みんな一緒主義」も自然と希薄化していくから。(78字)

③ (1)完答 ③ (2) * 2

【別解】

自分のわがままを抑えつけていると、他人のわがままも受け入れられず、一定の信念や感受性や行動以外の物を拒否し、「みんな一緒主義」に陥ってしまうから。(74字)

⑫

③ (50点)

- (一) a 存在 b 過労 c 生計 d 時刻 e 映(つて)
- (二) A ア B B エ C ウ
- (三) X エ Y イ Z ア
- (四) A 単純 B 複雑
- (五) いつでも変わらない
- (六) エ
- (七) この世の中のよきこと
- (八) エ
- (九) まごとくんは、ぜいたくでなくても、みつよの家のような普通のくらしにあこがれているから。(45字)

⑦